



## 多大なる御支援をありがとうございました！

本日、無事に1学期終業式を終えることができました。保護者の皆様、地域の皆様の本校教育活動への御支援に心より感謝申し上げます。

コロナ禍が明け、一堂に会して体育館で終業式を行う予定でしたが、熱中症の心配がある天候が続いていたため、リモートで終業式を実施しました。

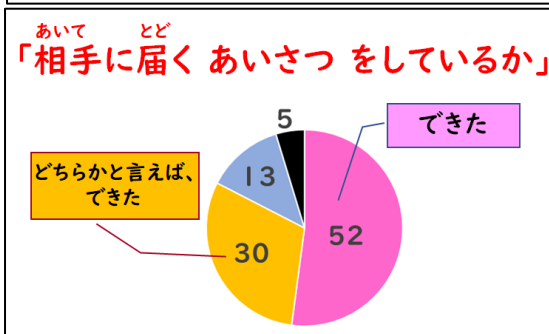
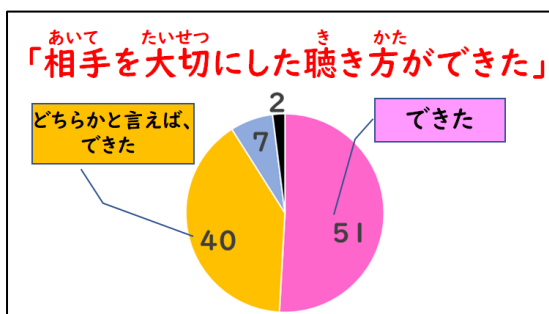
終業式では、3人の代表児童が1学期を振り返っての意見発表を行いました。

1年生の代表児童は、授業での発表、特に意見の述べ方を工夫すること、そして、本校で文化にしようとして取り組んでいるあいさつを意識してがんばったと発表しました。顔を上げ、原稿をまったく見ない堂々とした意見発表でした。

3年生は、今年初めて入った大プールで一生懸命練習したこと、そして努力の甲斐もあって泳げるようになったことを発表しました。また、音楽のリコーダーでも、練習の末、きれいな音での演奏ができるようになったことを発表しました。自分が成長していると実感している姿を頼もしく感じました。

5年生は、早く正確に小数の割り算を解けるよう練習したこと、水泳の5分回泳で最後まで泳ぎ切ろうとがんばったことについて発表しました。また、委員会活動で、全校への連絡となる昼の放送を確実にしようとして努力したことについても話してくれました。5年生になり、高学年らしく学校のリーダーとして活躍している姿が目に見えてきました。

代表児童は3人とも、堂々とした立派な意見発表をしました。体育館で、全校児童の前でやらせてあげられなかったことが少し心残りです。



校長からは、子どもたちが行った学校評価を基に、今年度の重点目標について振り返る話がありました。

本校の文化にしようとして取り組んできた相手を大切にしたい聴き方が「できた」と答えた児童は51%、「どちらかと言えば、できた」と答えた児童は40%でした。多くの子どもたちが相手を大切にしたい聴き方を意識して生活できたということをうれしく思います。

あいさつについては、「できた」と答えた児童が52%、「どちらかと言えば、できた」と答えた児童が30%でした。「あまりできなかった」「全然できなかった」と感じている子が、それぞれ13%、5%いました。

相手を大切にしたい聴き方も、相手に届くあいさつも、みんなできれば素晴らしいことだと思います。

しかしながら、それほど簡単なことではないようです。大切なのは、「自分はできているのか?」としっかり自分を見つめられること、そして、こんな聴き方ができる人になりたい、こんなあいさつができる人になりたいと理想の姿を思い描くことだと思います。その意味でも、「あまりできなかった」「できなかった」と自分を評価している人には期待をしています。2学期以降、自分が理想とする姿に近づこうと努力してくれるはず、と期待が膨らむのです。



もくひょうりそうをもつ!  
なりたいじぶんをえがく!

じぶんをしっかり  
見つめられる目をもつ!



いじめについては、1学期に数件のいじめを認知し、指導しました。いじめ撲滅は達成できていませんが、引き続き全校で撲滅に向けて取り組んでまいります。

1学期を総括し、夏休みを迎えるにあたり、子どもたちには、大切なこととして「自分をしっかり見つめられる目をもつこと」と「目標、理想をもつこと、なりたい自分を描くこと」の2つを伝えました。

本校でつくろうとしている文化についても、目標とする姿、理想とする姿がしっかり見えていないと目指すべき本物の姿に近づくことはできません。同時に、自分を素直にしっかりと見つめる目がない人に成長は期待できません。成長するために、不十分な自分を正しく知ることは、非常に重要だと思います。

「自分をしっかり見つめることができる目」と「目標や理想、なりたい自分の姿」は、充実した夏休みを過ごすためにも必要です。夏休みを迎えた今、自分をしっかり見つめ「こんな夏休みにしたい」「夏休みにこんなことをがんばりたい」「自分はこれが苦手だから夏休みにがんばって練習したい」というようなことを考えてほしいと思っています。夏休みの中盤には、立てた目標や理想の姿に対して今の自分はどうかと自分をしっかり見つめることが必要です。

校長自身も夏休みの目標を決め、子どもたちに披露しました。事故なく楽しい充実した夏休みを過ごすことができるよう願っています。

スクールボランティアの皆様  
雨の日も暑い日も子供達の安全を守ってくださり感謝申し上げます。



これは、1学期末に実施した学校評価にあるお母さんが書いてくださったことばです。たった一言ですが、このメッセージを見て心が温かくなりました。

1学期最終日の今朝も、真夏の日差しの中、多くのボランティアのみなさんが、子どもたちの登校を見守っていただきました。ボランティアのみなさん一人一人に、このお母さんの言葉を届けたいと思っていました。

学級活動を終え、下校する子どもたちは皆笑顔でした。夏休みが始まるワクワクした気持ちもあるのでしょうか、不機嫌な子は一人もいませんでした。下校する子どもたちを見送っている時、「さようなら」と言って10mほど進んでいった一人の6年生が急にUターンして私の元に戻ってきました。「校長先生、1学期間、ありがとうございました。2学期もよろしくお願いします。」そう言って頭を下げました。隣にいて訳も分からずいっしょに戻ってきた下級生の子もつられて頭を下げていました。驚きました。そして、涙が出るほどうれしく思いました。優しい子どもの心にふれ、心が震えました。

他の学年の子どもたちの中にも、「1学期間、ありがとうございました。」と言って帰る子がいました。子どもたちの姿やお母さんのメッセージに感謝の気持ちをもつことや、それを伝えることがどれほど大切でステキなことか、教えてもらいました。